

# INFORMATION RELEASE

ミサワホーム株式会社 〒163-0833 東京都新宿区西新宿 2-4-1 Tel.03(3349)8088 (広報直通)

2019年8月23日

～住まいは子育てのために～

## 第13回キッズデザイン賞を受賞

- 共働きファミリーをサポートする企画住宅「SMART STYLE H 新・スキップ蔵」など4点が受賞
- 単独受賞2点のほか、社会福祉法人や学校法人等との共同受賞2点
- キッズデザイン賞創設以来13年連続受賞、通算受賞点数は54点に

ミサワホーム株式会社（代表取締役社長執行役員 磯貝匡志）は、第13回キッズデザイン賞<sup>※1</sup>（主催 特定非営利活動法人キッズデザイン協議会／後援 経済産業省、消費者庁、内閣府）において、住宅や保育施設、育児に関する研究・調査など4点受賞しました。これにより、13年連続での受賞となり、通算受賞数は54点となりました。

ミサワホームは、住まいは「巣まい」、鳥の巣がヒナを育てるためにあるように、住まいづくりは元来子どものためにある、という考えのもとに商品を開発し、子育てにおいて“家でできること”を真摯に考え、住まいづくりに取り組んできました。その成果はキッズデザイン賞創設以来の13年連続受賞という実績にも表れています。

今回は、共働きに子育てと忙しい毎日を送る家族をサポートする企画住宅「SMART STYLE H 新・スキップ蔵」、住まいの安心・安全・快適・省エネを実現するIoTライフサービス「LinkGates（リンクゲイツ）」、運動意欲を喚起する環境や多様な体験が得られる空間設計により感性とからだを育む保育園「コピーリスクールよしかわみなみ」<sup>※2</sup>、幼児期の運動能力・意欲を伸ばすための「子どもの活発な活動を促す空間に関する研究・調査」<sup>※2</sup>の4点が受賞しました。

ミサワホームは今後も子どもの安全・安心と健やかな成長に貢献するための研究・開発に努めていきます。



※1：多様なステークホルダーとともに子どもの未来が明るいものであるように、デザインの視点から取り組む素晴らしい作品を顕彰するものです。子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・空間・サービス・活動・研究を対象としています。

※2：他法人との共同受賞です。

## ■「SMART STYLE H 新・スキップ蔵」(子どもたちを産み育てやすいデザイン部門)

家事の効率化、子育てサポート、家族の安全安心の提案を盛り込んだ、仕事と育児の両立を応援する企画住宅です。共働き世帯が増えるなか、働き方改革の進行により自宅で過ごす時間は増加傾向にあり、家族がよりつながり、より自分たちらしい暮らしを楽しむ共働きファミリーを応援する3つの提案を行っています。

「家事シェア」：“干す・取り込む・畳む・しまう”を最大限効率化した「ランドリー動線」や“集中収納”と“分散収納”を用途分けした「適材適所の収納計画」で家事効率が良く、家族も手伝いしやすい住まいの提案

「子どもの成長サポート」：適度な距離で子どもの生活を見守り、尊重し、自立を促す「スキップフロアデザイン」や「ただいま動線」等の提案

「安全・安心」：従前の安全安心アイテムに加えて、IoTサービス「LinkGates」を活用し、不在時にも家族の様子や家の様子を把握する提案

スキップフロアデザイン 子供の成長に合わせて親子のちょうど良い距離感を保ち、長く住み続けることができます。



a コミュニケーションリビング: 親子のつながりや会話が大切な時期は親子一緒にゆったり過ごせる広々リビング  
b マルチスペース: 熱中して何かに取り組む時期は集中でき、かつ見守ることができるスペース  
c キッズ専用フロア: 個室だけでなくキッズ専用洗面で、身支度など自分のことは自分でする環境をつくる

断面図

## ■IoT ライフサービス「LinkGates (リンクゲイツ)」(子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門)

LinkGates は、宅内の情報を蓄積、宅外サーバーへ送信し、外出先からも家の様子をチェックし、住まいの「安心」「安全」「快適」「省エネ」を実現するIoTサービスです。

新機能として追加した「おでかけ おかえり スイッチ」は、玄関内にタブレットを設置し、外出・帰宅時にスイッチを押すことにより、家族内で在宅状況共有します。GPS 運動式などではなく、あえて手動式の機能とし、帰宅時のあいさつをするようにスイッチを押し家族に知らせることで、コミュニケーションをとり「住教育」の一環として活用します。また家族の在宅状況に合わせて各部屋の設備を自動制御する機能も備えています。



LinkGates (リンクゲイツ)



LinkGates (概念図)

■「コピープリスクールよしかわみなみ」(子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門)

当施設はミサワホームが設計を担当し、社会福祉法人コピーソシオ(本部 東京都目黒区/理事長 小林 照男)が運営を行っている埼玉県吉川市の保育園です。

園庭には、子どもたちの観察力を養い運動意欲を育てるために、場所ごとに高低差をつけることにより、様々な角度からヒトやモノを見えるようにしています。さらに樹木・菜園・遊具を点在させることで子どもの行動範囲を広げ、運動量を増加させる工夫をしています。また、保育室では心を和らげるため木調をあらわにした梁のある空間とし、部屋同士のつながりを感じるように間仕切り建具でゆるやかに仕切ることで、シーンに応じた使い分けや異年齢児交流を促進させています。

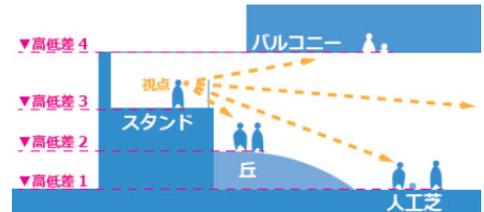
※社会福祉法人コピーソシオとの共同受賞



外観



場所ごとに高低差をつけた園庭



様々な角度からの視線

■「子どもの活発な活動を促す空間に関する研究・調査」(子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門)

子どもたちの健やかな成長を育む環境づくりを目指し、ミサワホーム、ミサワホーム総合研究所(本社 東京都杉並区/代表取締役社長 千原 勝幸)、早稲田大学鳥居研究室、株式会社コピーアンドアソシエイツ(本社 千葉県野田市/代表取締役 小林 照男)が共同実施した研究・調査です。

1~2歳児を対象に、保育室内の環境が子どもの活動量に与える影響について、2年間にわたり調査しました。保育士の動き方や遊び道具の配置を変えるなど、4つに条件分けをした実験を行い、その結果、遊び道具を点在させずに、子どもたちが動き回る場所と留まって遊ぶ場所を分け、目的ごとにまとまった空間をつくるのが活動量を増加させることがわかりました。実際の設計においても留まってあそぶ「静」の空間と、動き回ることのできる「動」の空間を分け、「動」の空間に配置する家具や扉を安全性の高いものにする事で、より安全で活発な活動を促す設計提案に展開できると考えられます。

調査で得られた結果を、ミサワホームが携わる園舎設計で活かし、効果を実証していきます。

※ミサワホーム総合研究所、早稲田大学鳥居研究室、コピーアンドアソシエイツとの共同受賞

	＜基本的な動きの形成＞										＜身体能力の基礎づくり＞					
成長段階	首すわり	寝返り	ひとり座り (ずりばい)	はいはい	つかまり立ち (低い歩き)	ひとり歩き	歩行の 安定化	ボールを 投げる、蹴る	ひとり 階段昇降	片脚立ち	スキップ	多様な 運動経験				
行動範囲	安全な空間					動き回れる空間				チャレンジできる空間						
スポーツ科学的 見地	必要な動き	手足を屈伸	横に転がる	座位バランス	はいはい	つかまり立ち移動	上肢も用いて バランスをとる	安定歩行 大股歩行	その場でジャンプ ボール遊び	階段昇降 片脚支持	片脚 ジャンプ	スキップ 揺球	多様な 運動経験			
	運動量と質	徐々に増やす		震りも獲得		徐々に増やす			60分程度/日			60分程度/日				
	後々の問題点	固有感覚	受け身技能	転倒リスク		転倒、手足の協調 ＜自分の体を自覚する＞			重心、固有感覚 転倒リスク		脚力不足		運動嫌い			
月齢	3~4ヶ月	5~6ヶ月	7~8ヶ月	9~10ヶ月	11~12ヶ月	1歳前半	1歳後半	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳				

今回の調査対象

＜成長期において適切な時期に適切な身体成長を促すための子どもの成長段階の目安マトリクス(早稲田大学鳥居教授監修)＞

以上

\*この件に関するお問い合わせ先\*

ミサワホーム(株) 経営企画部コーポレートコミュニケーション課 奥本博之 横田義史

TEL : 03-3349-8088 FAX : 03-5381-7838

E-Mail : Yoshifumi\_Yokota@home.misawa.co.jp